

学校名 [ 五城中学校 ]

[ 中 ] 学校 [ 2019 ] 版 単元名 [ 自分を守る ] P36～37

教科・領域名 [ 学校行事 ] [ 時間 50分 ]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

【ねらい】

○自分の命は自分で守るということ(自助)について、実際の場面を想定しながら、話し合い活動を通し理解する。

【授業の流れ】

1 大震災の時に多くの小中学生は、どこで何をしていたか。また、どのような行動をしたか。

2 副読本P.36の写真①②③⑥を見て、学校内で被災した際に、どのような危険が潜んでいるか、また、どのような行動が適切であるかを考える

3 実際の自分たちの学校の写真を提示し、同様に考える。

(避難訓練ではしていないような状況の場合)

- ・放課後の部活動の様子(体育館)
- ・登下校中の下駄箱付近

4 副読本P.36の写真④、⑤を見て、学校以外の場所で被災した際に、どのような危険が潜んでいるか、また、どのような行動が適切であるかを考える。

5 班を作り、自分たちが作った防災マップを用いて、自分たちの地域の危険箇所を共有する。

6 P.37の津波から身を守るための基本的な知識を○×形式で確認し、副読本で細かなところを見る。

7. 本時の振り返りと感想を記入する。

【準備物】

- ・防災副読本、ワークシート、校舎内の写真
- ・防災マップ

●提示用写真

○放課後の部活動の様子

○登下校中の下駄箱付近



●防災マップ作り →



○夏休みに宿題として、自分の通学路の危険箇所を書き込ませた。

●授業の班での話し合いの様子



●生徒の感想

・今日の授業を受けて、普段どれだけ危険なものに囲まれて過ごしているかを、あらためて認識できた。災害の際は、適切な行動を取り、自分の身は自分で守りたいと思った。

・「自助」について考えさせられた今日の授業を通して、自分が今まで間違っていて覚えていた事もありあらためてしっかりと知識がないと、自分の命は守れないと思った。地震の後の行動がとても重要だと分かった。

<b>第4章－2 自分を守る</b>	組 番 氏名
--------------------	--------

1 東日本大震災の時、どこで何をしていたか。また、そのとき、どのような行動をしたか。

○何をしていたか。	○どのような行動をしたか。
-----------	---------------

2 副読本 P.36 の写真を見て、どこに危険が潜んでいるかを考え、どのように行動することが適切かを考えよう。【学校編】

	どのような危険があるか	どのように行動すれば良いか
写真① 学校で調理実習中		
写真② 登下校中の校舎そば		

【学校外編】

	どのような危険があるか	どのように行動すれば良いか
写真④ 市の中心部		
写真⑤ 住宅地の路地		

3 自分たちが作った防災マップを用いて、自分たちの地域の危険箇所をチェックしよう。

4 津波から身を守るために

次の問題は、正しいか正しくないか○×を付けてみよう！

Q1 逃げるときは、できるだけ海岸から遠くに逃げた方が良い。	
Q2 津波注意報や警報を聞いて、情報を確認してから逃げた方が良い。	
Q3 津波のとき、早く逃げるために自動車を使ったほうが良い。	
Q4 P.37の標識は、「津波避難場所」を示している。	
Q5 三陸地方には、「津波てんでんこ」という言い伝えがある。これは津波が来たらたとえ家族が心配でも、各自てんでんばらばらに逃げるという意味である。	

5 今日の授業を受けての感想